

ペットボトルのリサイクル

4月1日から「プラスチック資源循環促進法」が施行となりました。プラスチックごみ問題への関心が高まるなかで、排出量の多いペットボトルを減らそうと、リサイクルが進められています。ところで、飲み物の容器にはペットボトル以外にも缶やガラス瓶、紙パックなどがあります。これらの容器はペットボトルに比べてどれだけ環境負荷が少ないのか、またどれだけリサイクルされているのでしょうか。

品目別リサイクル率・回収率等

| | |
|--------|--|
| ペットボトル | リサイクル率 88.5% 回収率 96.5% ボトル to ボトル率 30% (2020年度) |
| アルミ缶 | リサイクル率 94.0% CAN to CAN 率 71.0% (2020年度) |
| スチール缶 | リサイクル率 94.0% (2020年度) |
| ガラス瓶 | リサイクル率 67.6% びん to びん率 80.7% (2019年度) |
| 紙パック | 回収率 38.8% (2020年度) |

各団体ホームページより

アルミ缶やスチール缶は高いリサイクル率を誇り、一度ごみとなっても多くが再び同じ缶として生まれ変わっています。またガラス瓶には、回収された後、洗浄してそのまま再使用される(リユース)「リターナブル瓶」があり、これが1回使用あたりのCO2排出量が最も少ない飲料容器となります。

ペットボトルに関しては、ペットボトルを原料化し、新たにペットボトルとして再利用する、「ボトル to ボトル」が課題となっています。推進協議会では、2030年度までにこの比率が50%となるよう目標を掲げています。とはいえ、日本のペットボトルのリサイクル率は、諸外国と比べてとても高くなっています。

ポイントは回収率の高さにあります。起点となる消費者が、ルールを守って分別することが今後も重要になる、と言えるでしょう。



#環境の日はグリーン

6月5日は環境の日です。これは1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、「環境基本法」で定められたものです。また6月の1ヶ月間を「環境月間」として、毎年全国各地で様々な行事が行われています。

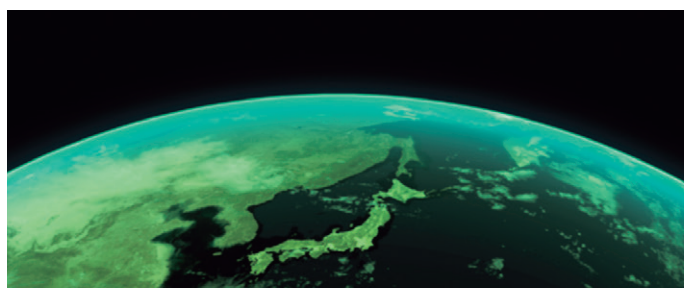
今年度のテーマは、「#環境の日はグリーン」で、日本各地のランドマーク施設のライトアップカラーが、環境をイメージした「グリーン」に変わります。東京ではスカイツリーや都庁など、全国約260箇所での実施が予定されています。またその写真をSNSに投稿することで、環境の日を広く周知し、環境問題への更なる意識向上を目的とする企画です。

国連ではこの日を「世界環境デー」と定めており、世界各国で毎年、様々な行事が行われています。2022年のテーマは「Only One Earth」“かけがえのない地球”です。

グリーンの夜景を眺めたら、環境について私たちができることを考えてみましょう。

実施情報の詳細は

<https://www.env.go.jp/guide/envmonth/>



----- JS環境委員会短信 -----

向こう3ヶ月の予報によると、平均気温は東日本で高い確率50%と、今年の夏も暑くなりそうです。熱中症のリスクが高まる季節になります。体調管理に気をつけましょう。

本社 環境委員会メンバー

委員長：下鳥治

委員：小井土昌弘 河野純一 庄司亜佐子

曲師里奈 森智史



株式会社ジャパン・スリーブ
本社 ケースタジオ